

補導日誌より

寒さの中で遊ぶ子らの姿に少年の頃を思い出す

三月三十一日(金)

春の嵐、寒さが戻り寒風の中、ミレニアムパークで数人の小学生が手袋もせず、自転車で遊んでいた。「おおーい、集まれ!」の声に、素直に集まってきた。

「寒くないかい?」「寒くないよ」と言うが、手をにぎると凍りつくような冷たさ。自分が小さかった頃の事を思い出した。終戦の頃、学校から帰る時、向かい風が強く、雪が顔に突き刺さるような痛み。後ろ向きに歩き、風と雪をよけ、父親に作ってもらった雪靴、母親に編んでもらった手袋で寒さを忘れたひ



ととき。家に帰ると、田んぼでの雪投げ……。冷たいようで、なんとなく温かい思い出がよみがえってきた。

「気をつけて帰れよ」と別れの言葉を残し、佐久平駅へと向かった。

後略 (浅間地区 S・K)

言葉を大切にしよう

四月四日(火) 晴れ

学校がまだ春休みということで、ジャスコ内や、その周辺に子ども達の姿は多く見られたが、大きな問題は、無い様であった。佐久平駅で、中学生に声がけてみると仲間数人で遊びに来たとの事。しかし、その中の一人の言葉使いが、私達(大人)に対して仲間と全く同じ話し方をしたことに、驚いてしまった。学校や家庭では、どうなんだろうかと考えさせられる。

反面、ミレニアムパークでスケートボードを楽しんでいた若者達は気持ち良く、礼儀正しく話をしてくれた。

話し方一つで相手の印象を変えてしまうものだと思った。一つひとつの言葉を大切にしたい。そんなことを子ども達に伝えたい。

(浅間地区 H・W)

長野県下の少年補導の概況 (平成17年中)

犯罪少年の概況

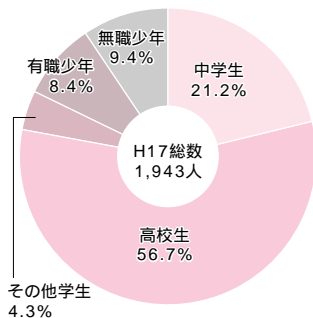
刑法犯総数(成人を含めた数)に占める少年の割合は、40.4%で、少年の占める割合は、前年より増加、全人口に占める少年(14歳から19歳まで)の割合と比べても格段に高くなっています。

罪種別では

- 凶悪犯、粗暴犯は、前年に比べ増加・凶悪犯22人のうち強盗が18人
- 窃盗犯は全体の62.5%

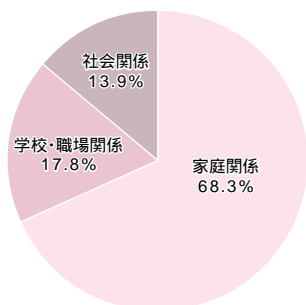
学職別の状況 (左図)

- 高校生は減少しましたが、中学生が大幅増加しました。



非行の主な背景 (左図)

- 凶悪犯、粗暴犯、窃盗犯では「家庭関係」が圧倒的に多くなっています。



佐久市の状況

平成17年中に補導された青少年は前年より大幅に増加しました。中学生・高校生が8割以上を占めており、なかでも女子が増加しております。また、警察に補導された刑法犯少年の人数も昨年に比べ3割も増加しています。

少年センターの街頭補導では、喫煙・自転車の二人乗りへの声かけ補導が多く、商店からは万引きの被害も多く聞きます。子ども達が、あやまって非行の道へそれる事のないよう大人が全地域をあげて見守っていかねばならない状況です。

さくいだいら

陰曆六月の異称を水無月という。広辞苑によれば、「古くは清音、『みなつき』と読み、水の月で水を田に注ぎ入れる月の意」と書かれている。保温苗代の普及によって田植えが早まり、六月には、佐久平でも、早苗が風にそよぐ風景が見られる。補導活動で、浅科地区を巡回する時は、なぜか心が躍る。雄大な浅間山を背景に、広々と続く田圃が心を癒してくれるからだろうか。佐久市に至るところ、自然が織り成す素晴らしい景色がある。

長いこと鹿児島県の図書館長をしていた児童文学者の椋鳩十が、「心のふるさと」という随想集の中で次のように述べている。

『日本人の心に清らかな風を吹きこんだのは自然であった。日本人の心にゆとりをもたらしたものは自然であった。日本人の心に清潔なロマンを感じさせたのも自然であった。自然は日本人の心のふるさとともいえることができる。』

野沢出身の俳人相馬運子も、四季にわたって、この佐久の山河の自然の美しさをうたっている。かけがえのない、この佐久の自然を、いつの世までも伝え残していきたい。

みちびき

NO.12
佐久市
少年センター

早寝・早起き・丈夫なからだ

朝ご飯をしっかりと食べて生活リズムを整えよう！

山や田んぼが、みどりを一層濃くし、いよいよ初夏の風景を感じるように、なりました。

とも国民運動があること知っていますか？

日も長くなり、子ども達は外での活動が多くなってきていると思います。そうになると、当然夕食も遅くなり、床につく時間も遅くなって、朝起きるのがつらくなります。これからの季節こそ、朝の清々しさが、気持ちを整え、やる気をおこしてくれると思います。

そこで、皆さんのご家庭での「生活のサイクル」を早寝、早起きに、してみませんか？

そして、子どもに、朝ご飯をしっかりと食べさせて、出発させましょう。

親にとっても、早起きすることで、気持ちの「ゆとり」ができて昔から言われている「早起きは三文の徳」を実感できるのではないでしょうか。

今、「早寝・早起き・朝ごはん」

「早寝・早起き・朝ごはん」

子ども達の正しい生活リズムを
地域全体ではなくめる社会をつくらう！ **国民運動**

今日の子どもの学習意欲や体力の低下は、家庭における食事や睡眠などの基本的な生活習慣の乱れとの相関関係が指摘されています。また、食生活については、食育の重要性が一段と高まっています。このようなことから、早寝早起きや朝食をとるなど、子どもの望ましい基本的な生活習慣を育成し、生活リズムを向上させるための全国的な普及啓発活動を行うため、文部科学省では、関係団体の協力を得て、「早寝早起き朝ごはん」国民運動を推進していきます。

- しっかり朝ごはん



心と体の安定

- 公園散策
- ウォーキング



だじな地域のコミュニケーション

- 朝のゴミ拾い



地域社会、学校、家庭が一体となって
心身ともに健康な
子ども達の育成を目指します。

子ども達の現状 平成17年度文部科学省委嘱調査より
朝ごはんを食べないことがある 小学生...15%
中学生...22%

こんな姿
どう思いますか？

携帯片手にゲームに夢中な子

新学期が始まって一週間、平日の午後あるゲームセンターに行った時。小学生がゲーム機のボタンを、かわいい手で、ものすごい速さでたたいていた。ゲームがひと区切れになったところで声をかけてみた。「こんにちは」「ゲームおもしろい？」「何年生ですか？」「お家は近く？」「小学校はどこ？」「今日は学校お休みだったの？」私の問いかけにあとけない口調で素直な答えが返ってきた。

しかし、携帯電話を片手にゲームをしてい

る姿に疑問を感じた。

「これ僕の携帯？」「うん、お姉ちゃんも持っているよ。これでお母さんと、連絡とるんだ」と、驚く私をよそに得意げに説明してくれた。いくつもの機械を使いこなす現代っ子。子どもの安全を携帯電話で確認しながら遊ばせているのだろうか、母親の姿を探したがどこにも見当たらない。

ゲームセンター内は他に、幼児を連れしたり、赤ちゃんを抱いたりする若いパパ、ママが何組もゲームを楽しんでいた。こんな光景を目にして、私の胸に不安がよぎった。